

成果の説明書

(氏名) 宮田 剛志	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
○研究成果	
(1) 著書	
宮田剛志 (2018) 「TPP 協定交渉の大筋合意と大規模法人経営の収益性・養豚部門に焦点をあてて-」 谷口信和編集代表 (東京大学名誉教授・東京農業大学教授) 『日本農業年報 第 63 号 米離脱後 TPP11 と官邸主導型「農政改革」-各品目への影響と対策 「農政改革」の行方-』 農林統計協会, 2018 年 1 月, pp.113-134。 (http://www.aafs.or.jp/)	
(2) 科学研究費補助金 基盤研究 C 研究分担者 (～平成 30 年度)	
古田恒平・宮田剛志「大規模法人経営における主食用米と飼料用米の収益性に関する分析-大分県豊後高田市を対象として-」 2017 年度日本フードシステム学会個別報告(2017 年 6 月 11 日。中村学園大学大会) (https://www.fsraij.org/fsraij/wp-content/uploads/2017/04/2017_program.pdf)	
(3) 依頼原稿	
宮田剛志「食肉における卸売市場の機能-群馬県下仁田ミート㈱の実態分析を通じて-」『農業と経済 流通の公正を支える卸売市場』 2017 年 11 月臨時増刊号, 第 83 巻第 11 号, pp.58-63。 (http://www.showado-kyoto.jp/book/b319785.html)	
(4) その他 (依頼原稿)	
①『平成 29 年度 (第 55 回) 農林水産祭受賞者の業績 (技術と経営) -天皇杯・内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞-』 (公財) 日本農林漁業振興会, 2018 年 3 月, pp.59-68。 (http://www.ndl.go.jp/)	
②宮田剛志「群馬県における農地中間管理事業の成果と課題」『土地と農業 No.48』 (公財) 全国農地保有合理化協会, 2018 年 3 月, pp.85-97。 (http://www.nouchi.or.jp/GOURIKA/etc/Etc)	
(5) 書評 政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第 236 号, 2017 年 7 月, pp.51-52。 矢口芳生 (2015) 『農と村とその将来』 農林統計出版	
○学会活動	
(1) 日本農業経済学会・(常任) 編集委員 (平成 29 年 3 月～)	
(2) 日本フードシステム学会・(常任) 編集員 (平成 28 年 6 月～)	
(3) 日本農業経営学会・常任理事 (平成 28 年 9 月～)	
(4) 農業問題研究学会・監事 (平成 28 年 4 月～)	
(5) 平成 29 年度 学外論文査読・審査等本数: 10 本 (英文 1 本)	
○社会活動	
(1) 第 56 回 農林水産祭 中央審査委員会 委員 農林水産大臣	
(2) 農林水産省 技術会議、農研機構 (NARO) 畜産研究部門 (～平成 31 年 3 月) 「自給飼料を活用した豚肉・鶏肉・鶏卵の差別化技術および低コスト生産技術の開発」 『革新的技術開発・緊急展開事業 (うち地域戦略プロジェクト)』 外部アドバイザー	
(3) (公財) 群馬県農業公社 農地中間管理事業評価委員会 委員 (～平成 30 年度)	

(4) ぐんまアグリノベーション研究会（県内の生産者の方々を中心とした研究会）

(5) その他

○教育活動

(1) 演習Ⅱ

大分県豊後高田市にて移住・定住対策（「田園回帰」）に関する調査研等を行った。なお、その成果の一部は、卒業論文として取りまとめた。

調査期間 計1回 平成29年11月25日～11月27日

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

(1) 谷口信和教授・東京農業大学/東京大学・名誉教授編集代表

『戦後日本の食料・農業・農村第3巻-I 高度経済成長期と農業基本法』農林統計協会

(2) 科学研究費補助金 基盤研究C 研究分担者（～平成30年度）

(3) その他

○学会活動

(1) 日本農業経営学会 シンポジウム コメンテーター 2018年9月（筑波大学大会）

(2) 日本農業経済学会編『農業経済学事典』丸善(株)，2018年12月（刊行予定）

(3) その他

○社会活動

(1) 農林水産省、その他

(2) (公財)群馬県農業公社農地中間管理事業評価委員会委員（～平成30年度）

(3) ぐんまアグリノベーション研究会（県内の生産者の方々を中心とした研究会）

○教育活動

演習Ⅰ・Ⅱ

大分県豊後高田市にて、三大学連携等により引き続き①調査研究、②定住・移住者との交流、③ボランティア等を行う。

以上です。